

自分らしく

いのち

を生ききるために

く がんになっても 安心して過ごせる地域をめざしてく

500名近いご来場、
ありがとうございました。

在宅でがんを生きる実行委員会



日時 平成26年4月5日(土) 14:00
会場 橋本市産業文化会館アザレア大ホール



開会の辞 伊都医師会長 前田至規先生

「家で死にたいですか？」
「看取ったことはありますか？」
など、会場に向かって質問をされました。

会場の半数以上の方が「家で死にたい」と思っており、その多さに驚かされる一方で、「現実的に可能でしょうか？」との問いかけには半数以下となり、住民のみなさんにとっても、その気持ちの狭間にある在宅医療に対する課題を垣間見ることが出来ました。



座長 (医) 英裕会 横手クリニック
横手 英義先生

昨年、「地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師」を顕彰する「日本医師会赤ひげ大賞」を受賞。

患者情報の共有化を実現した「ゆめ病院」への開発・開院にご尽力され、受賞されました。

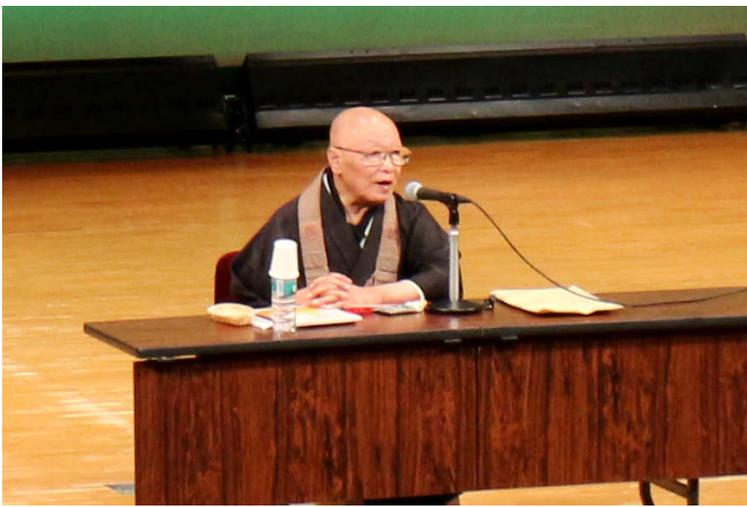
表彰式には皇太子殿下ご臨席のもと、開催されました。



講師 在宅療養支援診療所
ケアタウン小平クリニック 院長
山崎章郎先生

究極の終末期医療とは、患者さんが住み慣れた家での在宅医療だと再認識しました。

山崎先生の緩和医療に対する熱い想いが伝わって、ときに笑いを交えながら、学びの多い講演となりました。



講師 高野山真言宗総本山金剛峯寺
無量光院 住職
土生川 正道先生

絵本「葉っぱのフレディ」のお話が心を打たれました。

「千の風になって」を歌われ、会場のみなさんも一緒に口ずさまれてました。

土生川先生から溢れる優しさや如何なるものも宇宙と同じであるというお話そのものに、癒される時間でした。



閉会の辞 (医)南労会紀和病院 院長
西口 孝医師

「在宅でがんを生きる」第一回市民公開講座にたくさんの皆さんの参加をいただいて大盛況のうちに執り行わせていただきまして有り難うございました。

また、山崎先生、土生川先生、伊都医師会の皆様方、そしてリレー・フォー・ダンスにご参加いただいた皆様 今日本当に有り難うございました。

真言密教の大本山たる高野山の土生川先生の柔軟で且つ幅の広いお話と、日本の在宅医療の第一人者である山崎先生の実践に基づいた看取りに対するお考えを伺う機会はまだとないものであり、我々主催者だけでなく、参加いただいた皆さんに大きなこころのよりどころを与えていただいたと喜んでおります。



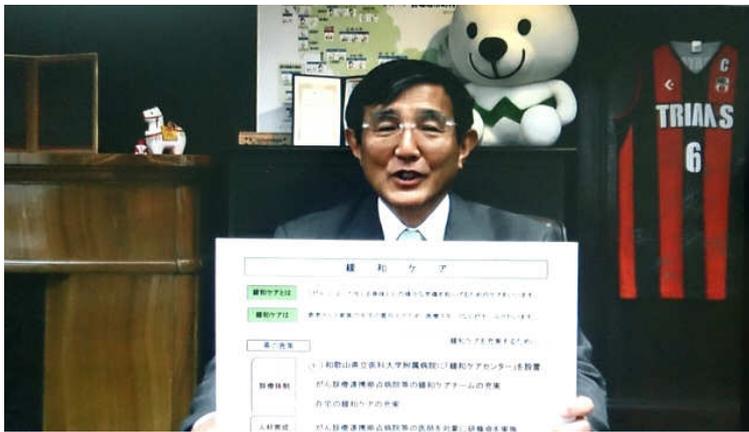
総合司会 在宅でがんを生きる実行委員長
梅村 定司医師

「病気になっても、安心して自分の家で、そしてこの地域で、過ごしてもらいたい」

長年、思い描いていた在宅医療をテーマにした在宅でがんを生きる第一回市民公開講座は、かけがえのない貴重な一日となりました。

「医療」と「宗教」が融合した「心のケア」における新たな第一歩を踏み出せたと思っております。

ご来場、本当にありがとうございました。



「恋するフォーチュンクッキー」が上映されると、会場のあちらこちらから歓声や拍手が沸き起こりました。総勢 44 団体 476 人も地域の人が踊ってくれ、会場でも踊りだす人が続出!! 一体感に包まれたダンスビデオでした。

また、今回の講演会にむけて、和歌山県知事仁坂吉伸氏からはビデオメッセージが届きました。和歌山県の取り組みなど、地域の方の緩和ケアへの関心も高まっていることがよく分かりました。



お待たせしました!



紀和病院が中心となり、制作編集しました。
たくさんの住民の方から YouTube への
要望があり、公開しました。
ぜひ、ご覧ください。



You Tube

恋する フォーチュンクッキー

～ 地域のみなさんによる
リレー・フォー・ダンス ver. ～

タイトル: 恋するフォーチュンクッキー 在宅でがんを生きる実行委員会 紀和病院編集

恋するフォーチュンクッキー 紀和病院

検索



“緩和ケア普及啓発事業（オレンジバルーンプロジェクト）に参加しています”

主催：在宅でがんを生きる実行委員会 問合せ先0736-34-1317

共催：伊都医師会、伊都歯科医師会、医療法人南労会紀和病院、中外製薬株式会社 特別協力：高野山真言宗総本山金剛峯寺

後援：橋本市、かつらぎ町、九度山町、高野町、朝日新聞和歌山総局、産経新聞和歌山支局、毎日新聞和歌山支局、

読売新聞和歌山支局、株式会社テレビ和歌山、FMはしもと株式会社